翔生（しょうせい）

Symbol Logomark　これまで各地商工会議所で使用されている商工会議所マークの下に、ゴシック体でデザインしたシンプルで馴染み易いロゴマークとなっています。ロゴは、商工会議所青年部の英語名（Young Entrepreneurs Group）の頭文字をとったものですが、同時に商工会議所青年部の持つコンセプト（若さ、情熱、広い視野をもつ経営者＝Youth, Energy, Generalist）を表しています。

発行　全国商工会議所青年部連合会
東京都千代田区丸の内3-2-2
日本商工会議所中小企業振興部内
☎03-3283-7847
編集　広報委員会

平成7年（1995年）
11月1日号
通巻　第19号
（年2回　5月・11月発行）

第15回商工会議所青年部全国大会〈埼玉大会〉

「直接交流、直接実感」彩の国・集えば多士彩々。

埼玉商工会議所青年部連合会　会長　大　村　晴　利

第15回商工会議所青年部全国大会・大宮大会は、埼玉県商工会議所青年部連合会（埼青連）主管のもと、大宮市において開催させていただきます。

開催する首都圏にのかえれ、今埼青連が一丸となり、給多の皆様を全ピッチにて迎えていきたいと考えております。

埼玉県は、大東京を右手にる関東平野のほぼ真ん中に位置し、首都東京の隣接県であり、緑豊かにある彩の国と呼ばれる魅力あふれる県として今なお注目を集めております。その埼玉の中核として繁栄し「緑の経済都市」としてめざましい発展をしている県の経済県の大宮市であります。

大宮という地名は、武蔵野国一の宮・氷川神社を「大いなる宮居」とあがめたことに由来し、古来、氷川の門前町として中山道の宿場町として繁栄され、近代には東北、上越線の分岐する鉄道の町として輝かしい歴史をもっております。

全国YEGのメンバーが日本各地よりお集まり頂くための交通アクセスは抜群であり、日帰りもできる地理的条件を兼ね備えております。

大宮YEGも設立10周年、大宮市政65周年という記念すべき年に「紡け感性、拡げよフィールド　YEG連携時代」のスローガンのもと本日という有目の今回大会を開催させていただけることを誇りとともに、首都圏で初めてという新しい全国大会のスタイル創りをめざしております。

都会的であり、かつおしゃれで、センス溢れる全国区の演出をし、参加して頂ける全国のメンバーに喜びと感動を肌で感じて頂き、いつまでも記憶に残るような大会にしたいと考えております。

「直接交流・直接実感」彩の国・集えば多士彩々というキャッチフレーズを掲げ、大会の場でひとりでも多くのYEGが青年経済人としての自覚と社会的役割を認識し、来るべき新世紀へ向けての連携の場を共有し合い、ますます激しく変化する社会情勢の中で確固たる時代認識と今後のYEGとしてのビジョンを示し、友情を深め新たなるフィールドを拓け、連携の輪をさらに一層広げることが出来ればこれ以上の幸せはありません！

埼玉県民の青年の皆さんある全国大会開催に向け、チーム・サイタマひとりひとりが熱意をもっておもてなしを致します。全国から、大宮へ多くの「多士彩々」のYEGメンバーのお越しを心からお待ちしております。11月15、16、17日に大宮でお会いしましょう！

第15回商工会議所青年部全国大会

■主催／全国商工会議所青年部連合会
　　　　日本商工会議所
■主管／埼玉県商工会議所青年部連合会
■開催地青年部／大宮商工会議所青年部

ごあいさつ

全国商工会議所青年部連合会
会長　辻　正　敏

大宮市において埼玉県連の主管により開催されます第15回商工会議所青年部全国大会は、いろいろな意味が込められております。

「研け感性、拡げよフィールド　YEG連携時代」のスローガンを掲げて、やがて訪れる時代に経済人としての対応を思考し、模索し、あるいは実践してきた全国のYEGが一同に集い、さまざまな連携についての「思い」、「考え」をぶつけ合い感じ合える場として、そして同時に人間として個の持つ要素、これは彩（いろどり）と言っても良いのですが、それがいかに大切かを知る場として、また、この地域の風土、文化に少しでも多く触れていただく場として等々。

日本全国から多くの経済人がいろいろな要素を持ち集う、まさに多士彩々、直接交流・直接実感であります。どうかこの場を感じていただき、「YEG連携」をより深める機会にしていただければ主催者として幸いです。

最後にこの大会を開催するにあたり並々ならぬご努力をしていただいております主管の埼玉県連、そして大宮YEGの皆様、また絶大なるご支援を賜っております行政機関、関係商工会議所をはじめ皆様に厚く御礼申し上げます。

たくさんの人々の手によって企画され実施される本大会、首都圏で初めて開催され、第15回という節目の大会をぜひ全国のYEGで盛り上げましょう。大宮でお会い出来ることを楽しみにしております。

第15回商工会議所青年部全国大会（埼玉大会）スケジュール

11月15日㈬

- YEG親睦ゴルフコンペ会場・おおむらさきゴルフコース
  時間・9時〜16時
- 県商連拡大役員会・前日会場・アルシェ（王宮）
  時間・18時〜21時

11月16日㈭

- 関東連携会議
  会場・ソニックシティ国際会議場
  時間・9時30分〜12時
- 登録受付
  会場・ソニックシティ大ホールロビー
  時間・12時〜14時
- 会員総会
  会場・ソニックシティ小ホール
  時間・13時〜14時
- 記念式典
  会場・ソニックシティ大ホール
  時間・14時15分〜15時45分
- 記念公演「もっと地球について語ろう」
  会場・ソニックシティ大ホール
  時間・16時〜17時30分
- YEG大交流会
  会場・パレスホテル
  時間・18時〜20時

11月17日㈮

- 特別講演
  I 共存共栄時代を生きる
  II 海底物からの贈物
  会場・ソニックシティ小ホール、市民ホール
  時間・10時〜11時30分
- エクスカーション
  I 飲むのに好し、食べるに良し、観るに佳し
  会場・サッポロビール埼玉工場
  時間・10時〜13時
  II さいたま新都心と「ゆうもあ・あーと大宮55」
  会場・大宮市内
  時間・12時〜15時

ビジネス交流プラザ
YEG全国物産展
日時・11月16日12時〜19時
　　　11月17日9時〜13時
会場・大宮駅コンコース
　　　ソニックシティ第一展示場

過去最高のＹＥＧが参加

全国でブロック大会を開催！

九州をスタートした全国商工会議所青年部連合会の９ブロック大会は、東北で幕を閉じました。
全国各地で、ＹＥＧの仲間は交流し、討論し、明日の地域社会を語り合いました。
２１世紀はもう目前、ＹＥＧ連携軸の真価が問われるのはこれからです。

北海道ブロック●美幌大会

「北海道独立論」に盛り上がる

雄大な釧路湿原を眼下にのぞむ美幌峠で有名な美幌町で、10月9日平成7年度北海道ブロック大会が開催されました。

北海道の道東に位置する美幌町に道内22単会、道外11名の来賓関係者含め計288名の参加をいただきました。

阪神淡路大震災の[illegible]に始まり、第1部の分科会ではパネルディスカッション方式をとりパネラーとして北海道会長、[illegible]青連会長、美幌会長、コーディネーターを[illegible]会長にお願いし「生き残りをかけた経営者」をテーマに熱い討論を繰り広げてもらいました。

第2部の全体会議では北海道会長に平成8年度のスローガン「[illegible]フィールドＹＥＧ連携時代」をテーマに話しをしていただきました。

第3部の記念講演では、㈱たくぎん総合研究所の[illegible]に「北海道経済の自立は可能か」をテーマに[illegible]北海道独立論を語ってもらいました。懇親会では美幌町の一大イベント、スターダストカーニバルの中、オープニングの[illegible]もの皆様方と「連携」について[illegible]語らい合い[illegible]、地域社会に貢献したいと思いました。

道内のＹＥＧ、道外参加していただいた商工会議所青年部及び日本商工会議所青年部の皆様本当にありがとうございました。

東北ブロック●八戸大会

人と物の交流　東北から世界へ

10月21日、東北ブロック大会が青森県八戸市で開催されました。

14回目を迎えた同大会には、大会史上最多のおよそ739名が参加、会場の八戸市公会堂はまさに[illegible]まり、大会としても[illegible]八戸商工会議所青年部メンバーは1年にわたる準備が報われ、胸の高まりを押さえ切れない様子でした。

全体会議では「[illegible]フィールドＹＥＧ連携時代」と題して、[illegible]青連会長の講話のあと、4青年部から地域連携の中間報告が行われました。

また、分科会では「人と物の交流・東北から世界へ」をテーマにそれぞれ「物流」「情報」「国際化」「地域交流」に分かれ、各担当者を交えて90分間極めて熱心な討論を繰り広げました。

式典では、日商会頭や八戸商工会議所会頭の挨拶などのあと、次期開催地は会津若松とすることを承認されました。

物産の八戸市公会堂では東北各地のＰＲコーナーと青森県内を中心とする物産展示コーナーが設けられ、いずれも大変な賑わいを見せました。

一方、ホテルで行われた大懇親会では、地元八戸の郷土芸能や虎舞などが披露されたほか、各地のＰＲが相次ぎ、賑やかな中にも和やかな雰囲気のパーティとなりました。

北陸信越ブロック●七尾大会

21世紀にバトンタッチ!!

8月29日から30日にかけて、北陸信越ブロック大会を、533名という参加を得て七尾市[illegible]で開催しました。

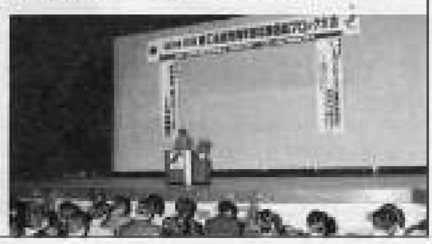
[illegible]では、[illegible]の[illegible]大会を参考にして、どんな大会にするべきか、悩み議論を重ねましたが、結果として七尾らしい大会にしようという事になり、実行委員会をつくって準備を進めてまいりました。

キャッチフレーズを「アクセス21」と決めたのも、数回の会議を重ねるうちに、これは、21世紀を背負わなければならない我々青年部がバトンを次世代に手渡さなければならない役目であると認識し、本大会を通じて確認する機会にしたいとの願いを込めたものです。

当日は大会式典の後、大阪産業大学教授・今野修平先生の基調講演を受け、4県の経済人代表によるパネルディスカッションを行いました。

[illegible]、懇親会は連携を確立して出来た、実り有る会だったと思っております。

最後に、本大会を通じてご協力いただいた皆様方に、心から感謝申し上げます。



関東ブロック●静岡大会

13日㈮、静岡で何かが起こった

10月13日「第15回関東ブロック大会静岡大会」が「21世紀の架け橋　このままでいいのか日本！」の大会テーマのもと、ブロック内外から千余名が参加し静岡市民文化会館で開催されました。

第1部式典ではセレモニーの後、[illegible]会長の講演を入れたりマジックショーで[illegible]会長（静岡ＹＥＧ）が登場したり、つくりかえの一事が発表されました。

第2部記念講演では「文化エネルギーが街を素敵に変える！」と題して（財）[illegible]理事長[illegible]氏が文化と文明の違い、街づくりには地域にある個性的魅力あるエネルギーを持つ人材を育てなければいけないと意外な切り口から21世紀への警鐘をしてくれました。

第3部ミステリアスセミナー＆ツアーでは20台のバスに分乗、11の分科会会場でさりげなく地域資源を発見・文化を知り、「静岡は素敵でしょ、見てよし、住んでよし」をＰＲしました。

第4部ミステリアスパーティーは会場を[illegible]の「日本平」[illegible]、グラス片手の[illegible]の中、参加者がそれぞれに分かれて楽しめる趣向があり、[illegible]うまく[illegible]に静岡で何かが起こった気がした大会でした。

東海ブロック●瀬戸大会

ロクロ、絵つけ体験も

平成7年9月15日（金曜日）に午後より瀬戸市文化センターで開催しました。

今回の大会では、各単会のご協力により登録総数が737名になりました。ブロック大会の内容は次のとおりです。

第1部
・全体会議（式典）

第2部
・記念講演と水谷幹治氏テーマ「今後の経済動向」
第3部（分科会）
第1分科会
本業部を訪れて…出会い
第2分科会
陶芸のこころ
第3分科会
セラミックの展望と未来
第2、第3分科会では絵付け、ロクロの体験コーナーを行いました。
第4部（懇親会・ビンネス交流プラザ）

このほか、各地の特産品や新商品を出展する為の催しが15日（金曜日）瀬戸市文化センター、16日（土曜日）宮市広場で催されました。

初の大会で行き届かないことがあったと思いますが皆様のご協力で無事大会が終了しました事を感謝しております。

近畿ブロック●高石大会

関空への熱い期待

9月9日（土）秋晴れに恵まれ、第13回商工会議所青年部近畿ブロック大会が、大阪府高石市において、"デイクオフYEG21世紀近畿の展望と関西国際空港"をテーマに高石商工会議所青年部の主管で開催されました。

午前中の第1部式典に続き、午後から第2部全体会議が行われた。会議では産業基盤北部会合の講話に続き、関西国際空港のビデオ放映と木村資金関空副社長より概要説明が行われました。

記念講演は地元高石出身のJリーグチェアマン川淵三郎氏により、Jリーグの経営戦略"をテーマに行われ、会場は終始熱気に包まれました。

又、関空が開港して9月で1年となり今後の近畿がどのように変化するのかを討議するパネルディスカッションに入り、浜村淳氏がコーディネーターとなりパネラーには川淵三郎氏、木村清子氏、ジャーナリスト五藤二津枝氏、エッセイスト上村氏、山田二郎氏、辻会長と多彩な顔ぶれが揃い活発な意見が交わされました。

席終了後懇親会では近畿2府5県をうつのブロックに区分し事前アンケートの集計結果に基づいて、関西国際空港の選択肢による近畿のイメージアップ及び市域内の動向変化と事業展開について"また"YEGの地域連携について"のパネルテーマに自由の議論が行われた第3部の懇親会では地元堀州だんじり祭りがやってクライマックスを迎え、入場後国際的にも評価の高い地元泉大学和コーラス部による合唱が演じられました。

懇親会では、来賓を含め約700名が交流を深め、1日だけの開催であったが各方面から内容が充実しているとよい評価を頂きました。

中国ブロック●出雲大会

古代ロマンを満喫！

第13回中国ブロック大会を10月6・7日出雲商工会議所青年部の主管で、出雲市で開催されました。6日は、記念ゴルフコンペ（64名）と、出雲大社正式参拝観光コースを行いました。

7日は会長会議を皮切りに、記念式典を、島根県知事をお迎えして行いました。その後、全員バスで移動し、分科会を開催しました。

第1分科会は出雲信金専務にて、担当の難問寺氏により出雲地方最大の地主家敷と庭園を散策しながら講演を頂きました。

また、第2分科会は、日本最多385本の幼生銅剣出土の荒神谷遺跡公園にて、島根県考古学会理事大橋氏に、古代出雲のロマンを講演頂きました。

午後は、株式会社生涯教育研究所春日氏をお招きし、「地方に根づくイキイキ活動」と題してご講演頂き、その後「環境知識まちづくりは地方文化から」をテーマに、西尾理出雲市長、勝間田氏、島根大教授氏、長野忠出雲中央青年会議所理事長主催によるパネルディスカッションを開催致しました。

その後、辻会長の講話を頂き、最後の大懇親会となる恒例ワイナリーに於いて、約550名参加頂き最大に盛り上がりました。辻会長と出雲市長が、歌合戦し、素晴らしい大会となりました。

四国ブロック●鴨島大会

鳳翔太鼓が鳴り響く!!

第12回商工会議所青年部四国ブロック大会は、9月21日、22日の両日、鴨島町において鴨島商工会議所青年部の主管で開催されました。

大会1日目は、早朝より会長会議が開催され、引き続き第1、第2、第3分会が行われました。会場を移動し、全体会議が開催されました。

全体会議では、主催者を代表して辻商工会会長挨拶、来賓祝辞、来賓紹介、乾杯の発声と続き、宴会に入りました。宴会では、鴨島町の郷土芸能の鳳翔太鼓を開会の合図に太鼓競会が開かれました。懇親会においては、次年度開催地九州YEG、全国大会開催地大宮YEG、中央研修会開催地新宮YEGによるPR、アトラクション等で時間を忘れ盛上に盛況が深められました。

2日目は、96名が参加しゴルフ大会が行われました。

九州ブロック●串間大会

第15回記念大会に1,000名が参加

第15回商工会議所青年部九州ブロック大会が、夏の暑い中7月14日に串間商工会議所青年部が主管で、九州各県及び全国の役員を含めて1千名が参加して開催されました。

ブロック大会が開催された串間市は、第一次産業を中心とした田園都市であり、観光地は都井岬の鴨馬で知名度が低く、陸・空の交通アクセスが悪い地域での大会はまくの困難を抱え解決の為に会員の体力と知恵・気力を使いました。

大会は、式典・分科会・記念講演が開催されましたが、串間大会の特色を出す為、第3分科会で「体験は己の財産」と題し、日本一の生産を誇るかんしょの「いも掘」を企画、参加された150名の方々は皆心に残り汚れるのも忘れて大きな芋を掘っていました。

大会終了後、懇親会が開催され賑わしていた会場も静まり、新鮮な魚と山の幸が一杯に盛合わせられたテーブルを囲み、酒を交わしながら青年部事業と活性化について意見交換をしながら親交を深めていました。

今後、中小企業を取り巻く環境は益々厳しくなっていくと考えられます。この大会で活かれたノウハウを、21世紀へはばたく会員人としてのステップにして、今後の青年部活動に活かしてもらいたいと思います。

特集　全国各地から……

研け感性、拡げよフィールドYEG連携時代

体と体をぶつけ合い、激しい議論に熱中し、
全国でYEGが、地域の創造に取り組んでいます。
北から、南からYEGの活動が届きました。
震災や経済不況に「負けてたまるか！」という
YEGの叫びです。

「海の新幹線」で熱気
釧路YEG／北海道ブロック

釧路YEGは昨年11月に設立されました。

現在は会員63名で事業は月1回例会を中心に3つの委員会で活動しています。

委員会名はそれぞれ地域対策を担当する「らぶ・くしろ」委員会、産業政策を担当する「しごとづくり」委員会、交流部門を担当する「なかまづくり」委員会とひらがなで統一。

最近の主な活動は「テクノスーパーライナー」（TSL）を題材にしました。TSLは海上を時速100キロ以上で走行できる船で「海の新幹線」とも呼ばれ、海上高速輸送次世代の担い手として現在実用化に向けて開発が進んでいます。

8月31日には実験船が釧路寄港ということで、まず事前に例会でTSLの勉強会を行い、実際の寄港の時には、はじめての対外的活動となるオープンセミナーを「TSL技術研究組合」の中曽理事長を講師にお招きして開催。会場は満杯で予想を上回る反響でした。

TVの天気予報で一番気温が低い表示の釧路ですが、あの数字は低すぎかも。羽田から飛行機で約1時間半。機会があれば自然と、気温を実感して下さい。

釧路YEGは燃えています。

クルーズ船でビッグイベント
能代YEG／東北ブロック

大型客船「サンシャインふじ」によるクルージングは、10月22日夕刻出港しました。

昨年度は能代港が開港して20周年の節目であり、青年部が中心となり実行委員会を組織して、能代港で「みなと祭り」を実施、グレイドアップした企画をと、本年度は客船の誘致を計画いたしました。

本年度の実行委員会は広域的に組織し、実行部隊はすべて青年部のメンバーが担当、委員長は青年部5周年の会長（現在は相談役）が努めました。

本クルージングには、能代市民を中心に約700名が参加しました。

能代港始まって以来のビッグイベントであり、本年度のみなと祭りの最後のイベントとして位置づけ、2泊3日の予定で、小樽へと能代港を出港、残念ながら台風14号の北上で予定を半日繰り上げ、無事帰港しました。

サンシャインふじは、能代港1万5千トン岸壁に20日午前9時に接岸し、その貴婦人ぶりを披露、外航船の入港風景にふれる機会が比較的多い市民ですが、客船の寄港は少なく、白を基調とした船姿で、独特な雰囲気を醸し出していました。

国内最大級の客船チャーターは、能代港の役割等について関心を深めてもらうことが最大の狙いです。そして、参加者には船旅と小樽の観光および船内でのジャズコンサートなどを楽しんでもらいました。

連携軸でゴールラッシュ
豊田YEG／東海ブロック

「豊田市にゴール!!」

今年4月、愛知県は豊田市に、2002年ワールドカップの国内開催候補地を決定致しました。

豊田YEGは、昨年9月豊田市で、実に25万人の署名を集めた「6万人収容の大規模球技場建設に係わる署名」へ積極的に参加。球技場をめぐる議論の中で、くるまの街＝豊田市が産業の空洞化の荒波をいかにして乗り越えていくのか？これからの豊田市は、どう歩むべきかについて、その一つの解答として「大規模球技場」と「スポーツ文化による街づくり」の視点で取り組みを開始しました。

本年、10周年を迎える我々豊田YEGは、6月に平塚YEGを訪問、「ベルマーレ効果」を探究し、Jリーグを誘致しようとする小山YEGと、Jリーグチェアマン川淵氏の出身地である高石YEGによる絶妙なYEG連携軸のアシストを受け、一般市民も対象とした記念講演の講師として「スポーツ文化の伝道師、Jリーグチェアマン川淵三郎氏」をお迎えし、「産業文化交流都市」を宣言するこの街で新たな産業と文化の融合に向けて、記念すべき一歩を印す事業として参ります。

全国YEGの皆様の熱い友情に感謝を致します。

震災被害の子供達を招いて「京都わんぱくクラブ」
京都YEG／近畿ブロック

阪神大震災が起こった直後から、京都YEGは、救援物資を届けることから活動を開始しました。

そして、被災地の小学生を京都に招待しようと「京都わんぱくクラブ」の計画を始めたのは、今年2月の中央研修会の受け入れ準備の真っ最中の頃でした。

京都府連と兵庫県連が主催、京都YEGが主管をすることになりましたが、いろいろな団体から予想した以上のご協力をいただきました。ジュース会社やお菓子会社から商品の提供を、バス会社から無料バスを、マンガ家の先生はサマーサンタのキャラクターを描いてくれました。もちろん各地のYEGの支援も大きな支えとなりました。ボランティアグループ、お医者さん…本当にありがとうございました。

7月下旬から8月中旬まで3班に分かれて実施されました。

第1班は西宮の子供達100人を「るり渓少年自然の家」に、第2班は神戸の子供達100人を「京都府立南山城少年自然の家」に、第3班は淡路島の子供達70名を「京都府立青少年海洋センター」へ2泊3日で招きました。キャンプファイヤー、工作、クルージングなど楽しいひとときを過ごして頂きました。

この場をお借りしてご支援くださったYEGの同志に感謝を申し上げます。

盛り上がる「となみ夢まつり」
砺波YEG／北陸信越ブロック

砺波商工会議所青年部の祭りの2大事業の1つに「となみ夢まつり」があります。チューリップフェアで有名なチューリップ公園で例年8月の最終の土・日に行われ、今年は8月26日、27日の両日でした。

26日は「ふる里芸踊り大会」が前夜祭事業として行われ今年で10回を数え、年々参加人数が増え、今年は300人が参加しました。

27日は祭り当日で、午前10時のテープカットで始まり、午後5時の閉会式までの7時間に約2万人が来場。青年部が各コーナーで汗を流しました。

祭りのコンセプトは、「市内の商工業の発展の紹介、子供達に最後の夏休みを楽しんでもらう祭り」です。

各コーナーを紹介しますと①体験コーナーでは石の彫刻・キーホルダー作り・チューリップ染めといったさまざまなものを子供達が作りました。②フリーマーケットでは、たくさんの方が参加、自由に物販をしていただく。③展示コーナーではいろいろな働く車の展示・体験④ステージコーナーでは、クイズ大会や大声コンテスト⑤飲食コーナーでは飲食青年部の協力による販売といったさまざまなイベントが1日で行われる祭りです。

デッカイ夢を気球（バルーン）に乗せて
小山YEG／（関東ブロック）

小山YEGは、昨年の関東ブロック大会主管を機に、様々な地域振興事業に積極的に参加しています。中でも、近隣3商工会青年部・小山JC・小山YEGの若手5団体が中心となって行う「熱気球日本グランプリ小山バルーンフェスタ'96」の開催に向けて、日夜、議論を重ねています。

大会開催による商工業の振興、地元経済への波及効果をもたらすべく、小山の若手経済人は日々奮闘しています。

この大会の大きな意義は全体の実行委員長が小山YEGメンバーから選出されたことです。形式だけでなく、実質的に青年部・JCと言った若手が中心になっている点も大きな特徴です。商工会議所と3商工会、親会同士の交流が薄かった所に、若手経営者間の深い友情が確実に芽生えつつあります。YEGが掲げる「地域連携」の人的ネットワークが、近隣地域から拡がっていることを今、確かな手応えとして実感できます。

小山バルーンフェスタ'96は、平成8年3月9日（土）10日（日）・11日（月）の3日間に渡って開催します！

ご来場心より歓迎します！メンバーの熱い想いが、今、大きな夢を乗せて大空へ翔こうとしています！

「お城まつり」に熱気
丸亀YEG／四国ブロック

丸亀商工会議所青年部は、昭和59年に設立され、今年10周年を迎えたばかりの心身共に若い青年部です。

丸亀市は全国の城下町の中にあっては大きくはありませんが、全国に12城しかない木造天守閣や扇の勾配と呼ばれる美しい石垣のある築城400年を迎える丸亀城があります。

この丸亀城を中心に「丸亀お城まつり」が毎年5月に3日間開催され、日本の太鼓祭り・大パレード・丸亀お城村などに多数の人々が参加しています。当青年部は、お城村に"ワクワクランド"を設けて子供達に夢を与え、おもいきって遊べる場所を提供しています。

また、地域住民と青年部会員の啓発と研鑽を目的に、ケント・ギルバート氏、橋本聖子氏など経済界、スポーツ界などより著名な講師を招いて、毎年定期講演会を開催しています。

さて、当青年部は広報総務・会員強化・例会運営・事業推進・親睦交流の5つの委員会によって運営されており、毎月各委員会を居酒屋などの"ざっくばらんな"場所にて実施しているため、会員相互の親睦と連携も密であると自負しております。

おいしい「さぬきうどん」と、瀬戸内海の新鮮な魚介類をご賞味いただくためにも、瀬戸大橋が開通し、ロケーションも良くなった四国の丸亀へ是非一度おいでませ。

ジャンボふく鍋でアピール！
下関YEG／中国ブロック

当青年部は、昭和55年11月7日、山口県下8番目の青年部として設立されました。

現在の現役会員数113名で運営されています。

本年度は、創立15周年を10月21日に控え実行委員会を中心に奮闘しているところです。

ところで、当青年部のユニークな活動を紹介しますと、地域のイベント等で、下関を代表するふくを材料としたふくの鍋、名付けてスーパージャンボふく鍋を仕込み、市民の皆さん又は来場者に振るまっている事です。

春の5月には下関海峡まつり、冬の11月には下関さかな祭を恒例とし、また平成6年11月20日に山口県長門市で開催された「第14回豊かな海づくり大会」に参加、県内外の招待客4000名の方々にふく鍋で接待しました。その他、今年1月の阪神大震災で被害にあわれた皆さんに、少しでもお役に立てればと、有志が集まりふく鍋を多くの方に食べていただきました。

さて、スーパージャンボと名がつくにはそれなりの大きさでなければお話しになりませんが、その鍋は、アルミ合金製で長さ5m幅4m高さ2.5m容量6㎥で一度に約2万食分が仕込めます。鍋の形は勿論ふくの顔になっています。

昨年、新しく製造し直し2代目のふく鍋です。

我々青年部はこのスーパージャンボふく鍋が下関市のPRに役立てばと考え、これからも恒例の活動として続けて行きます。

「曽我どんの傘焼き」を復活させる
鹿児島YEG／九州ブロック

古来、鹿児島薩摩藩では、曽我十郎・五郎兄弟の故事に習い、「忠義と孝行」を重んじています。明治以降よりも郷中教育と言われる市内の各学舎による道徳教育が行なわれ、その一行事として不用和傘を集め、戦後の一時期を除き、毎年「曽我どんの傘焼き」という伝統行事が行なわれてきました。

しかし、平成3年以降、会場となる「甲突川」の増水や後継者不足などの諸事情により残念ながら中断されていました。

鹿児島YEGでは独特の「郷中教育」の中で育くまれてきた、鹿児島の三大行事の伝統文化を守り正しく継承して行こうと、本年度「かごしま祭委員会」を新たに設置し、岐阜市和傘組合の義援や関係者の協力を得ながら和傘500本を集め、4年ぶりに復活させることが出来ました。

さる7月29日、当日の夜は好天にも恵まれ、甲突川の堤防には約2万人の観客が集まり、河井会長、坂副会長以下青年部会員も、鉢巻きにまわし姿で、傘焼衆として参加し、傘と共に地域を愛する心も熱く燃やしていました。

翔生 Communication PLAZA

「混迷・混純」から「共創・共働」へ

商青連副会長
角口　賀敏

戦後50年目を迎えた今年、21世紀まであとわずか4年と少しになりました。上手く舵を切るにはいささかない気もしますが、平成7年は、戦後の経済的、社会的文化的なモノの作りまでが大きく変容しつつあるのを実感した年でした。

経済をみれば、単に我が国だけを視野に入れればよかった時代はとうに過ぎ去り、企業が生き残っていくために海外法人をつくることがいっそう促進され、それに伴い国内の空洞化が進み全体の不況に拍車をかける事態に陥っています。アジア地域の日本企業に「200万をこえる雇用がかかる」、我が国はいままさにアジア経済圏のキーマンとなりました。いや、好むと好まざるとに、いまや日本経済の浮沈は、世界経済の浮沈に関わっているのが現状でしょう。

社会・文化を俯瞰した場合として、これまでの日本社会には見られなかった「オウムサリン事件」のような無差別テロが頻発し、社会不安を増大させています。

混迷やら混沌やらといわれ、いわば世紀末的不安が高まる中、今一度基礎認識にたちかえって過去を見直し、将来を考えていこう、私ども商青連YEGも皆の常13回中央研修会（平成8年2月7日・8日）では、記念講演として、戦後の日本経済の立役者の堺屋太一先生をお招きして、先生の生きざま・過去の歴史、そしてこれからの若き経済人はいかに行動していくべきかを語っていただくことになっています。

「混乱」をいかに利かに生かすか、よりいっそう問われているのがいま現在の状況ではないでしょうか。そこで、日本商工会議所YEG「YEG地域連携編」を方針にたて、あらたなネットワークの構築を意図されたわけですが、その方針からさらに「共創・共働（コラボレーション）」それぞれの能力や特性をシェアリングしながら相互に刺激しあい協力しながら新しいビジネスや活動を展開していくこと」を目指し、本研修会では、各地の地域連携具体例の発表の場、各単会の代表者同士が、出来るだけ多くの情報を持ち寄り、青年部活動に、また事業に生かせられるよう、同業種とか、年代などの小グループに分け、多くの発言ができ、また多彩な意見を聞ける機会を設けています。今後このグループから新しい連携軸が生まれんことを期待しております。

「混迷・混純」なんかは横「ありません」本当に怖いのはそんな状況に埋没し、抹を忘れることです。過去を知り、新しきを知る「温故知新」ならぬ「温故知新」の作業と「共創・共働」の発想「行動があれば、必ずや未来が見えてくるとかたく信じています。

第13回　中央研修会を新宮（和歌山）で開催！

平成8年2月7、8日

「熊野アロハスピリッツで」

新宮YEG
会長　夏山　晃一

平成7年度、「第13回全国商工会議所青年部連合会中央研修会」は、来る平成8年2月7・8日の両日、地方小都市で初めての大会として、新宮YEG主管のもと和歌山県新宮市において開催させていただきます。

当地は、熊野地方の中核として、紀伊半島の南端に位置し、中世から「蟻の熊野詣」で知られる熊野三山信仰のメッカとして栄えた紀南の中心都市であります。

又、この度、本研修会を主管させていただきます私ども新宮YEGは、昭和61年8月22日に発足、以来、「豊かで住み良い街づくり」をスローガンに創意と工夫をモットーに取り組んでおり、本中央研修会開催を実現出来ることは、地域活性化の一助として、この上なく喜んでいるところでございます。

これまで、中央研修会は政令都市もしくはそれに準ずる都市で開催されて参りました。交通アクセスの面からいえば、私どもの地方はその意味では辺鄙な土地であり皆様にご不便をおかけするかもしれません。しかし、そのハンデをばねとして、ではなく大事に残されてきた郷土の持つメリットとして受けとめ、今までにない研修会とすべく、熊野アロハスピリットの精神をもって必ずや実りある大会を実現するため情熱を燃やしております。

全国の仲間には、先祖とも称える「熊野」にお越しくださいますよう宜しくお願い致します。

第13回全国商工会議所青年部連合会中央研修会タイムスケジュール

2月6日(火)		
	15:00〜17:00	お灯まつり参加者受付および着替え
	21:00〜22:30	前日者懇親会 場所/万兆楽いは新宮市福祉センター
2月7日(水)		
	9:00〜12:00	エキスカーション
	12:45〜13:45	中央研修会登録受け付け
	13:45	第13回中央研修会開会
	14:15〜14:30	基調講演1　商青連会長　辻　正孝
	14:30〜14:45	基調講演2　次年度会長予定者　松田　孝吉
	15:00〜16:30	事例発表　YEG連携　五グループ報告
	16:40〜18:10	地域連携軸についての対談（パネルディスカッション） 清水吉治和歌山大学教授 三浦義紀国土庁総合交通課課長補佐ほか
	18:40〜20:30	同業種・地域分け等による交流会
	21:00〜22:30	ミニ交流会
2月8日(木)		
	9:30〜10:40	記念講演会
	10:40〜11:50	会員総会
	12:00〜13:00	委員会昼食会
	13:00〜15:00	平成7・8年度役員引継会

京都商工会議所青年部　インターネットで情報受発信

京都YEGと有志企業25社は、9月下旬から11月にかけ世界最大の情報受発信網、インターネットを使って自社製品の通信販売や予約受付などの営業を始めた。

インターネットで情報を受発信する企業は工芸品、陶器、あん、旅館、アパレル、工務店、飲食など幅広い業種にわたり、来春には50社を超える。

京都YEGはこれまでインターネットを利用して地場産業をPRし、発展させる方法を話し合ってきた。しかし、中小零細企業の集まりであるYEG企業にとって最大のネックは経済性であった。地域、使用状況によって異なるが、1年に100万円は覚悟せねばならなかった。しかし、京都府が応援するインターネット基地「京都アイネット」が1月に誕生して状況が一変した。個人の場合、市内電話料金プラス年額6,000円で世界中と情報交換が出来るようになったのである。これによって京都の中小企業がバーチャルな事業展開が可能になったのである。販売だけでなく、仕入れも世界中から行えるのである。

中小零細企業が大企業に打ち勝つには、又、商店街の生き残りをかけた戦いにも、インターネットが強力な武器になることを信じて疑わない。

他で、全国で関わりがあるYEGの皆様に、我々のノウハウを提供し、全国的な情報網を作りあげたいとも考えています。まずは、クリックして実際に御覧になって下さい。

http://web.kyoto-inet.or.jp/org.kyotoyeg/

連絡先：京都商工会議所青年部副会長
石田智之　030-71-36107

翔生 Communication PLAZA

こちらも連携時代

「日本ＪＣ」と「商青連」のトップ会議が実現！

▲山本・日本ＪＣ会頭（左）と辻・商青連会長（右）

今までなかなか実現しなかった日本青年会議所（日本ＪＣ）会頭と全国商工会議所青年部連合会（ＹＥＧ）会長のトップ会議が、８月２日実現しました。

会談では、率直な意見交換がされ、「それぞれの団体が一層協力し、枠にとらわれない柔軟な対応が必要だ」といった様々な意見がだされました。

また、今後とも、地域経済の発展のためにＪＣとＹＥＧが交流・連携し、足りないところを補完しあえる体制づくりが望ましいことを確認しました。

ＹＥＧ連携時代

国土審議会から「四全総総合的点検調査部会報告書」が発表され、「地域連携軸構想」が打ち出され、日本の国土の構造改革、活性化推進の構想が強く提言されました。平成７年度商青連活動方針の柱となっているＹＥＧ連携活動についてレポートします。

鹿児島―青森間２、１５０㎞を走破！ 日本縦断キャラバン交流を実施（鹿児島ＹＥＧ）

本年７月、鹿児島・宮崎県民には待望の九州縦貫自動車道路「えびの～人吉」間が開通しました。これによって北は青森まで、鹿児島から高速道路を降りずに行くことができるようになりました。

これを機会に、鹿児島の観光キャンペーンをかねて青森ＹＥＧとの協力で地域連携を検証しようということになりました。

一行は、浜田鹿児島県商工会議所青年部会長を団長に、鹿児島ＹＥＧ（松山会頭大会議所委員長以下８名）青森ＹＥＧ（高橋委員長以下３名）の総勢１１名。

走行時間３０時間、休憩時間を含めると３８時間のＹＥＧ連携の旅でした。

この高速道路が開通したおかげで人、物、情報が多量に流入してきます。鹿児島、宮崎両県にとってはアジア諸地域との交流を見据えるとともに、北に向けてのビジネスチャンス、マーケット拡張が広がることを意味します。

第１に、時間の短縮は肉体的に、心理的に大きな変化をもたらします。

第２に得る、北九州圏への距離が近くなりスペースワールド、ハウステンボスといった観光施設と、鹿児島の自然と宮崎のシーガイヤとのドッキングあるいは独自に南九州をパッケージする観光企画を創出します。錦江湾・桜島の海のクルージングを取り入れた鹿児島・宮崎のオーシャンリゾートを売り込んだ独自の観光ルートの開発が可能となります。

２、１５０㎞の間にある８サービスエリアで１０県連４０人のＹＥＧの仲間とふるさと特産品及び観光資源情報などの交換をいたしました。

それぞれの地域ならではの特産品の差し入れをいただき、新たな交流と新たな連携に向けてスタートを踏み出すことができました。

知らない土地で新たな出会いがあり、人との新しい交流の芽が生まれました。

最終ゴールの青森ではＹＥＧ全国の交流を通して、陸奥湾のクルージングに青森ＹＥＧから招待を受けました。

最後に、連携とは「それぞれが常に連絡をとりあって、モノゴトを実施すること」であり、交流とは「違った色合いのものが、お互いに入り交じること」であります。

（商青連特別委員長、鹿児島ＹＥＧ会長・河井達志）

「紀伊半島内の経済連携を考える会」が発足

紀伊半島が「地域連携軸構想のモデル地区」に指定されたことがきっかけになり、三重、奈良、和歌山３県と大阪府南部のＹＥＧの有志が集まり、「紀伊半島内の経済連携を考える会」がこのほど発足しました。

４府県からそれぞれ１名発起人と有志が集まりこれまでに３回の勉強会が開催されました。

紀伊半島は、海山の自然や歴史風土に恵まれた日本一大きな半島ですが、しかし交通アクセスをはじめとするインフラ整備が大きく立ち遅れています。

関西新空港の開港や新中部国際空港の計画決定、さらには第２国土軸構想など大きく動き出そうとしています。

４府県の仲間が集まり、情報交換と人の交流を通じて新機軸を打ち出せたらと考えています。

アメリカ経済の潮流に触れる！

ＹＥＧ米国視察研修に24名参加

参加者のひとこと

松田祥吾（長崎）
米国研修では、中小企業を見学し、実際のアメリカの中小企業者の生の声を聞けたのは大変な収穫でした。

津田純一（京都）
明るさ、陽気さ、大きさ、大らかさ、すべて私達を越えていると思います。またまたアメリカに学ぶところは多いと思いました。

三宅　章（玉野）
あらゆる面で積極的なフロンティアスピリットにふれ、目が覚めました。

石原將宏（彦根）
日本の混沌とした状況を見ると、果たして、日本はこれで良いのかと考えてしまう。人種のモザイク国家のデモクラシーのルールの中から湧き出て来るエネルギー。日の出ずる国のエネルギーは何処に行ってしまったんだろう。

前田和弘（鹿児島）
あらゆる影響や流れが一瞬に抜き去られようとしているように感じられました。

伊能富雄（伊勢崎）
アメリカの巨大なパワーを行く先々で感じられた。自分で描いていたイメージとオーバーラップし、方向性を見失ってしまいそうであった。

鈴木悌介（小田原）
大きな素材を内包しながら、「前向きに」「プラス発想で生きる姿勢は、今の私達日本人にとっては是非見習う必要はある。

岩崎絵美子（京都）
これからは日本が独自の日本の歴史と風土と文化に沿った、日本的経営をして行くべきときがきたと感じました。

山崎宗夫（松代）
Ｐｒｏｆ．[illegible]教授の話からは既に何があっても切れない仲となっている日米関係を再認識し、先端産業において日米関係を越えた全世界的な連携が必要であることを知らされた。

加藤　茂（玉野）
日本の場合、国土が狭いにも関わらず有効な利用がなされていないので、土地の立体的な利用・建物の高層化が必要であろう。

神谷竹彦（浜松）
今まで他の団体による海外研修にも数多く参加してきたが、ＹＥＧ海外視察研修は、他にない大変優れた企画であったことをもっと自慢してもいいと思っている。

小形善信（武生）
顧客が欲しがっているものを顧客の立場になって「提供させてもらう」と言う考え方が、バリューマーケティングを徹底していました。

角口賀敏（新宮）
消費者のニーズは安価だけでなく、「こだわりの時代」に入っています。一歩先行くディスプレイや、店舗そのものをブランド化してしまうなど、様々な工夫が見られました。

児玉龍之介（小林）
流通業は消費者に変革を迫られており、新しい流通形態が色々と模索されていく過渡期であろうと思う。

賀木新悦（秋田）
街づくりに市民の声を聞くのは基本である。しかし、個人によって価値観の違いは大きい。そこで比較的に決定する方法をとる訳であるが、ボストンの開発局の姿勢は市民の利益を優先するという理念がありました。

滝口富美子（茅ヶ崎）
「アメリカがよくなるのは２００９年に入ってからです。[illegible]は日本の約三分の一、企業生産性は二倍になるでしょう。」と語る高沢氏（日本経済環境研究所・所長）の言葉は強烈でした。

妹尾隆哉（鹿児島）
懐の深いアメリカのパワーに負けないように、西暦２０００年を生き抜いて行かなければならないと感じました。

津国昭夫（玉野）
いたる所で、サービスの向上を感じた。すべてがそろっているアメリカでソフトが加わるとどう勝負するだろう。

野村忠秀（松山）
我々中小商工業者も視点を一つ高め、国際競争力のある流通形態を模索しなければならないと思います。

池田寿子（京都）
「ボストン」は京都人にとって、落ち着く街。古くて新しい街。理想とする都市開発局の行政指導の内容のお話しを聞き、京都と比較すると愕然としました。

市川　誠（京都）
わが愛する京都のために、この伝統と良さを守るために、京都ＹＥＧとして市民レベルでなすべき事はいっぱいあると再認識した。

河井達志（鹿児島）
生活者の心を何処に捉えて行くか。過去に囚われないアメリカらしい発想の凄さを思い知れた。

YEG「連携事業」に大きなはずみ！

ＹＥＧ米国視察研修団
団長　辻　正敏

全国商工会議所青年部連合会が平成七年度の協調事業として行った「ＹＥＧ米国視察研修」は、混迷する経済環境の中、国の外から日本を見てみよう、それも常に新しいアイディアの萌芽を発信し続けているアメリカからみた日本を認識しておこうと致しました。そして今年度青年部が提唱する「ＹＥＧ連携事業」のヒントを見つけてみようとして実施いたしました。また、本年は日本商工会議所の機関誌「石垣」の発刊十五周年にもあたり、それを記念しての事業でもありました。

企画立案から実施までの時間が短い中、商青連研修事業委員会の皆様のご尽力により他に類を見ない大変有意義な研修になったと自負いたしております。

本研修に関しまして、いろいろご指導頂きました京都産業大学経営学部教授、柳原範夫先生、大変ていねいに解説を頂きました現地コーディネーターの皆様、そして本研修を最初から最後まで親身に導いて頂きました近畿日本ツーリストのエージェントの方々に心より御礼申し上げます。

「ＹＥＧ米国視察研修の意義」

京都産業大学経営学部教授
柳原範夫氏

周知のごとく、戦後五十年に及ぶ今日まで、日米両国は安全保障、経済、貿易、社会、文化、教育など、様々の分野で密接不可欠な関係を模索しながら、良きパートナーとして、相互理解の上に、良好な関係を維持してきたことは間違いありません。

しかしながら、近年、貿易摩擦に端を発した経済問題は、かって考えられなかったほどの重要な影響を、日米双方の国にもたらせているように思われます。

なぜ今日、このような経済摩擦が浮上してきたかについては、日米両方のそれぞれの理由によっていることは間違いありません。

しかし、日米経済を将来的に、世界経済の中で大きな役割を占めている日本と米国は、これからも良きパートナーとして、グローバルな経済の発展に一層寄与していくことが何よりも大切であります。

このような日米の方向にとって大切な時期に全国商工会議所青年部連合会の青年経済人達が、米国を訪問しありのままの米国の実相を自分の目で確かめ、さらにできるだけ多くの経済人、知識人と交友を深めることができれば今後の日本経済の望ましいあり方を模索するうえにおいて、限りなく意義あることだと言えるのではないでしょうか。

（本稿は、ＹＥＧ米国視察研修団の企画に際して種々のご指導をいただいた京都産業大学経営学部の柳原教授から、団長宛に寄せられたものの抜粋です。）

ＹＥＧ米国視察研修日程表

日順	月日	発着都市名	内容
1	6月25日	東京発 サンフランシスコ着	・市場視察 コストコ・プライス・クラブ ・日米関係セミナー サンフランシスコ州立大学
2	26日	サンフランシスコ	・マルチメディア関連企業 インテル本社訪問 ・市場視察 アメリカ最大のアウトレットセンター・ザ・グレイトモール訪問
3	27日	サンフランシスコ発 ボストン着	ボストン泊
4	28日	ボストン	・ベンチャー企業訪問 [illegible] Management & [illegible] ・都市開発視察 ボストン市再開発局訪問 ・街づくり活動視察
5	29日	ボストン発（列車） ニューヨーク着	・ニューヨーク証券取引所視察 ・ニューヨーク市内視察 ウォール街、国連本部 ・商工会議所関係者との夕食会
6	30日	ニューヨーク	・市場視察 [illegible] ・ニューヨーク市内視察（オプション）
7	7月1日	ニューヨーク発	
8	2日	東京着	